

山形県広報誌県民のあゆみ令和5年9月号テキスト
データ読み上げ用として加工しています。

<表紙>

山形県広報誌／県民のあゆみ 令和5年9月号 第635号

県民のあゆみ9月号

特集 県内産業の持続的発展に向けてDXを支援！（2ページ）
奏であう人 移住者の視点で地域の交流を生み出す（8ページ）
潜入レポート！ 山形県警察交通機動隊（16ページ）

今月の表紙

マッシュルームの生産現場でDX（デジタル・トランスフォーメーション）に取り組むスタッフの皆さん。栽培ハウスにセンサーやカメラを設置し、ハウス内の温度や湿度、CO₂濃度などの点検作業を自動化するとともに、測定データを分析し、品質や生産性の向上に取り組んでいます。（撮影協力：有限会社舟形マッシュルーム）

<2から3ページ>

タイトル

特集

県内産業の持続的発展に 向けてDX（デジタル・トランスフォーメーション）を支援！

県では、産学官金の連携による「山形県DX推進ラボ」を創設し、県内企業のDX（デジタル・トランスフォーメーション）を支援しています。

デジタルによる産業の変化

コロナ禍では、キャッシュレス決済やテレワークなど、デジタル技術を活用した新しいサービスや新しい働き方が急速に広まりました。今では、あらゆる産業において、AI（人工知能）をはじめとする新たなデジタル技術を使ってこれまでにないビジネスモデルを展開する新規参入者が登場しています。

これらの変化に対応し、本県の産業が今後も持続的に発展・成長していくためには、県内企業のDX（デジタル・トランスフォーメーション）を進めていく必要があります。

<企業のDX（デジタル・トランスフォーメーション）とは>

デジタル技術を使って、企業のサービスや働き方などを変えてより良くし、企業の競争力を高めること

先進事例 三井屋工業株式会社(米沢市)

(自動車内外装品製造業)

スマートフォンなどと連動した生産管理システムを独自開発し、設備故障や不良品発生の予知・予防、運搬作業の自動化などのスマートファクトリー化により、生産性が倍増。

DXに取り組む上での課題

二県内企業に対する意識調査では、DXの「言葉の意味を理解して取り組んでいる企業」は13.7パーセントにとどまっており、あまり取組みが進んでいません。企業がDXに取り組むには、「必要なスキルやノウハウがない」、「対応できる人材がない」ことなどが課題となっており、各企業の実態に応じた支援が必要となっています。

DXへの理解と取組み

言葉の意味を理解し、取り組んでいる 13.7パーセント

言葉の意味を理解し、取り組みたいと思っている 19.4パーセント

言葉の意味を理解しているが、取り組んでいない 36.7パーセント

言葉は知っているが意味を理解できない 18.7パーセント

言葉も知らない 6.5パーセント

わからない 5.0パーセント

注1：母数は、有効回答企業139社

注2：各数値は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100とはならない

<企業が取り組む上での課題>

- 必要なスキルやノウハウがない
- 対応できる人材がない
- 対応する時間・費用が確保できない
- どこから手をつけて良いか分からない

出典：株式会社帝国データバンク山形支店

「特別企画：DX推進に関する山形県内企業の意識調査」

DXに関する取組み

県では、今年4月に、産学官金19団体の連携による「山形県DX推進ラボ」を新たに創設しました。関係機関が一丸となって、県内企業のDXに向けたさまざまな支援を行っています。

<山形県DX推進ラボ>

知るから使うまでを一体支援

- ・研究機関、県工業技術センター
- ・産業支援機関
- ・業界団体（工業・情報サービス）
- ・金融機関
- ・高等教育機関

山形県 DX 推進ラボによる DX 創出までの伴走支援

(個別支援)

DX 推進計画の策定・実行

- ・社内 DX レベル診断支援
- ・DX の構想、ロードマップ等を定めた DX 推進計画策定支援

(面的支援)

DX の普及啓発

- ・セミナーの開催
- ・関係機関連携による情報提供

1 普及啓発活動

県内企業の皆さんにDXの目的やメリットなどを知ってもらうため、セミナーなどの普及啓発を行っています。

今年6月に開催した「山形県DX推進ラボ キックオフイベント」では、企業のDX支援に取り組む専門家が、製造業が取り組みを成功させるためのポイントを紹介しました。参加した企業の方からは「製造業がDXと相性が良いことがわかった。どのような取り組みができるか検討していきたい」など好評でした。

2 DX推進計画の策定支援

県内企業が実際にDXに取り組む上で必要になる「DX推進計画」の策定支援を行っています。具体的には、企業がデジタル化などの水準を把握するための自己診断を行い、専門家が診断結果をもとに企業に改善策をアドバイスします。この結果を踏まえ、DX推進ラボが企業に専門家を派遣し、DXの実現までの取り組みや推進体制などの計画策定を支援します。

<企業の取り組みの流れ>

DX レベルの自己診断

DX 推進計画策定

内容：DX の目標、IT システムの検討、推進体制づくりなど

DX の取り組みの実践へ

3 DXに関する専門家の配置

県内企業の皆さんのさまざまな疑問や課題に対応するため、「山形県DX推進ラボ」の構成団体である（公財）山形県産業技術振興機構に今年度から新たに「DX推進コーディネータ」を配置し、企業の現状・課題の把握からDXの実現までの伴走支援を行っています。

DX 推進コーディネータが解決します！

相談無料

貴社の高付加価値化をデジタルで実現してみませんか？

ぜひご相談ください。

<問合せ先>

電話番号 023-647-3136

公益財団法人 山形県産業技術振興機構

E-mail info-iot-yamagata@ypoint.jp

DXに関するメールマガジンも配信しています。

ご登録は上記メールアドレスまでご連絡ください。

デジタル化とDXの違いは？

デジタル化：効率化のための業務の電子化です。

例：紙で管理している製品の製造記録を電子化。

DX：デジタル技術を使ってサービスや働き方などを変え、企業の競争力を高めます。

例：工場の各部門のデータを一元管理するシステムの開発により生産性や品質を向上。また、当該システムをサービス化し、他企業へ展開するなどの新規事業を創出。

4 DXをけん引する人材の育成

DXの推進にあたっては、DXに取り組む県内企業や、企業のITシステムづくりを担う県内IT企業などにおいて、高度な知識や技術を持ち、取り組みをリードする人材が必要です。

県では、データの収集・分析やAIの活用など先端技術に関する研修会（（一社）山形県情報産業協会主催）の開催を支援するなど、DXをけん引する人材の育成に取り組んでいます。

県内産業の持続的発展・成長へ

県では、DXに取り組みやすい環境や支援体制を整えることで県内企業の取り組みを後押しし、本県産業の持続的な発展・成長につなげていきます。

山形県DX推進ラボの取り組みはこちら

<https://local-iot-lab.ipa.go.jp/lab?k=yamagata-pref-iot>

ぜひご覧ください！

県政テレビ番組

いき☆いきやまがた 放送のご案内

「県内産業の持続的発展に向けてDXを支援！」と題して県内民放4局で特別番組（30分）を放送します。

山形テレビ（YTS）9月2日（土曜日）午後3時55分から

さくらんぼテレビ（SAY）9月10日（日曜日）午後2時30分から

テレビユー山形（TUY）9月17日（日曜日）午後3時から

山形放送（YBC）9月23日（土曜日）午後4時25分から

放送時間は変更になる場合があります。

問い合わせ 産業技術イノベーション課 電話番号 023-630-2368

<4から5ページ>

タイトル

令和5年10月1日（日曜日） 新たな県立新庄病院が開院します 「仁」「愛」「和」の心をもって

新病院の特長

- 最上地域で初めてヘリポートを備えた「地域救命救急センター」を設置し、高度な救急医療を提供します
- 専門の医師を配置し、がんや糖尿病などの生活習慣病への対応を強化します
- 新たに「総合患者サポートセンター」を設置し、診療内容や入院手続き、退院後の療養環境、介護・福祉サービスの利用など一連の相談に対応します
- 大規模災害や新型コロナウイルスなどの感染症への対応を強化します

診療科と病床数

写真キャプション1 エントランスホール

写真キャプション2 病室（1床室）

診療科

<現行>

内科 消化器内科 循環器内科 呼吸器内科 血液内科
腫瘍内科 脳神経内科 小児科 外科 乳腺外科
整形外科 形成外科 脳神経外科 皮膚科 泌尿器科
産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科 放射線科 麻酔科 救急科

<新設>

腎臓内科 糖尿病・内分泌内科 緩和ケア内科
精神科・心療内科 歯科 リハビリテーション科

<病床数>

325床（注釈）病室は1床室と4床室があります。

院長からのメッセージ

県立新庄病院 八戸 茂美 院長

当院は、最上地域における基幹病院として地域の皆さまに「安心・安全・信頼」の医療を提供してまいりました。この度、地域の皆さまのご支援の下、新病院を開院できることは、地域医療の維持存続にとって大変喜ばしいことでもあります。新病院では、診療科の増設に加え、地域救命救急センターや総合患者サポートセンターの設置など、機能が大幅に強化されます。職員一同、これらの機能を最大限に生かし良質な医療を提供してまいります。

Check!

新病院1階に図書室・カフェを設置します。癒しの空間をぜひご利用ください。

移転作業に伴う休診のお知らせ

9月30日（土曜日）から10月3日（火曜日）は入院患者の移送など、集中的に移転作業を行う期間となりますので、救急患者を除き、外来診療をお休みします。ご理解、ご協力をお願いしま

す。

移転後の住所 郵便番号 996-8585 新庄市金沢 720 番地の 1

新庄病院ホームページ <http://www.ysh.pref.yamagata.jp/>

問い合わせ

県立病院課 電話番号 023-630-3410 新庄病院 新病院整備課 電話番号 0233-22-5525 (代表)

タイトル

出会いから子育てまで全力でサポート 「子育てするなら山形県」の実現に向けて

誰もが安心して子どもを生み、育てることができる社会の実現に向けて、結婚、妊娠・出産、子育てまでステージに応じた支援を行っています。

結婚の支援

県と市町村などで組織する「やまがたハッピーサポートセンター」では、利用者のニーズに応じた出会いのサポートを行っています。

- ・ お相手を紹介してほしい方はボランティア仲人「やまがた縁結びたい」
- ・ いろいろな人と出会いたい方は出会いイベント
- ・ 自分でお相手を探したいはマッチングシステム「Aiナビやまがた」

【結婚したいあなたを応援！】

やまがた縁結びたい会長 伊藤正純さん

やまがた縁結びたいは、結婚を望む方を応援するボランティア仲人です。現在、約 50 の個人・団体が県から委嘱を受けて活動しています。出会いの機会が少ない方や、自分に合う結婚相手を紹介してほしい方はお気軽にご相談ください。

AI がお相手をおすすめ

「Ai (あい) ナビやまがた」とは…

AI (人工知能) が 1 対 1 の出会いの機会を提供するマッチングシステムです。自分のスマホ・PC などでお相手を探すことができます。

やまがたハッピーサポートセンターや Ai ナビやまがたについて詳しくはこちら

<https://www.dsc-yamagata.jp/>

妊娠・出産の支援

県では、不妊治療費助成事業として、不妊治療を受けた夫婦への支援を行っています。

また、不妊に悩む方の相談窓口「不妊専門相談センター」を設置しています。お気軽にご相談ください (要予約)。

予約受付 電話番号 023-628-5571 (受付時間：月曜日・水曜日・金曜日の午前 9 時から正午)

不妊治療費助成

<助成対象>

公的医療保険が適用される不妊治療（生殖補助医療）を受けた方

<助成金額>

1回あたり4万円から9万円

<申請方法>

お住まいの地域の保健所に申請（山形市の場合は村山保健所）

詳しくはこちら <https://www.pref.yamagata.jp/010004/20220610funin.html>

子育ての支援

県では、赤ちゃんや小さなお子さんを連れたママ・パパが外出先でも安心して「授乳」や「おむつ替え」ができるよう県内の公共施設や商業施設、観光立寄施設などに「赤ちゃんほっと♥ステーション」の設置を進めています。

登録施設は「やまがた子育て応援サイト」のマップなどで確認できますので、お出かけの際にぜひご利用ください。

【やまがた子育て応援サイト】

子育てをがんばるパパ向けの情報を集めた「イクメン応援やまがたパパ+（プラス）」をサイト内に開設し、イクメンの皆さんやご家族、企業への役立つ情報を発信しています。

詳しくはこちら <https://kosodate.pref.yamagata.jp/ikumen>

写真キャプション1 赤ちゃんほっと♥ステーション（伝国の杜）

写真キャプション2 このマークが目印です

赤ちゃんほっと♥ステーションの登録施設を募集中！施設整備のための補助制度もあります。

問い合わせ しあわせ子育て政策課 電話番号 023-630-2668

<6から7ページ>

タイトル 6月補正予算（46億5,400万円）の概要

エネルギー・食料品価格等の物価高騰の影響を特に受けた生活者や事業者に対して支援するとともに、ポストコロナの新しい県づくりを推し進めるための6月補正予算を編成しました。その代表的な取組みをご紹介します。

1. 低所得者世帯・子育て世帯、生活者に対する支援

●子ども食堂等における食材費等のかかり増し経費に対して支援を行うとともに、生活にお困りの方に食料品を提供するフードバンク活動を支援します。

- 給食を実施している県立学校において、これまでどおりの質や量を保った学校給食が実施できるよう、食材費を支援します。
- 市町村が取り組むLPガス料金の負担軽減及び地域経済活性化に向けたプレミアム商品券等発行事業に対する補助を行います。

写真キャプション 食の支援を行うフードバンク

2. 医療機関、福祉施設に対する支援

医療機関のほか、児童養護施設や高齢者施設、障がい者施設等の社会福祉施設における物価高騰等によるかかり増し経費に対して支援します。

3. 農林漁業者に対する支援

- 畜産農家、漁業者、きのこ生産者等に対し、飼料、資材、光熱費等の価格高騰分を支援します。
- 施設園芸農業者が行う省エネ設備の整備等を支援します。

4. 中小企業に対する支援

政府の「電気・ガス価格激変緩和対策事業」の対象となっていない、「特別高圧」電力を使用する県内中小企業等に対して、消費電力量に応じた補助を行い、電気料金の負担軽減を図ります。

5. 地域公共交通や地域観光業等に対する支援

- 乗合バスやタクシーの運行維持等のための支援金を支給するとともに、深刻化するバス・タクシー事業者の運転手不足に対応するため、従業員の二種免許取得を支援します。
- 貸切バスやタクシーを活用した県内の観光施設を巡るさまざまな旅行商品への支援を行うほか、仙台空港を利用する外国人観光客の県内への来訪の交通手段として、仙台空港と山形・庄内間のバス運行の再開を支援します。
- 国際チャーター便による観光交流を拡大するため、県内旅行会社と海外旅行会社が相互にチャーター便を活用する取組みを支援します。

6. その他諸課題への対応

- 東北公益文科大学の公立化・機能強化の検討のため、県と庄内2市3町の合意形成に必要な財政負担のシミュレーションや具体的な公立化及び機能強化策の詳細な調査を実施します。
- DX（デジタル・トランスフォーメーション）・GX（グリーン・トランスフォーメーション）等新しい社会変革の動きが進む中、県内企業の持続的な成長をサポートするため、山形県企業振興公社と山形県産業技術振興機構を再編統合し、新たな産業支援機関を設立するための準備を進めます。

写真キャプション 東北公益文科大学

タイトル **県政トピックス** こんなことがありました

1) こどもたちが健やかで幸せに成長できるように

こどもまんなか応援サポーター宣言（令和5年6月15日 山形市）

県は、こども家庭庁が掲げる「こどもまんなか」の趣旨に賛同し、知事が「こどもまんなか応援サポーター」に就任しました。「こどもまんなか」の趣旨は、こどもや若者の意見を聴き、その意見を尊重し、こどもや若者にとってよいことは何かを考え、自分ができるアクションを実践することです。県では、赤ちゃんや小さなお子さんと安心して外出できる環境整備などの子育て支援や若者が活躍できる環境づくりなど、「子育てするなら山形県」の実現に向けた取組みを進めていきます。

2) 大きく育て！やまがた紅王が本格デビュー

デビュー記念イベント（令和5年6月17日 寒河江市）

今年本格デビューのさくらんぼ大玉新品種「やまがた紅王」の認知度向上を図るため、最上川ふるさと総合公園でデビュー記念イベントを開催しました。100人分の席を用意したトークショーには立ち見が出たほか、週末に開催した「流しさくらんぼ」は合計で1,800人以上が参加するなど、6月6日から6月30日までのイベント期間中に県内外から約20,000人の方に来場いただきました。今後も「やまがた紅王」のブランド化や、県産さくらんぼの更なる評価向上に取り組んでいきます。

知事コラム

山形の秋の風物詩「芋煮会」

山形の秋といえば真っ先に「芋煮会」を思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか？

里芋、こんにゃく、ねぎは基本。そして内陸では牛肉を醤油味で。庄内では、豚肉に味噌味が主流。それぞれの地域で、それぞれの家庭で「これはゆずれない！」という具材や味付けがあり、豊穡の秋をさらに一層豊かなものにしていきます。私は醤油味の内陸育ちですが、どちらの地域の芋煮も大好きです（笑）。

ここ数年、新型コロナの影響で大勢集まったの芋煮会は自粛せざるを得ませんでした。山形の食材を持ち寄り、子供から大人まで一緒に楽しむ。そこには笑顔が広がり、時代がどんなに変わろうとも、変わらない山形の良さと魅力がぎっしり詰まっていると感じます。

そして芋煮会といえば、忘れてはいけないものが日本酒。今年開催された令和4酒造年度全国新酒鑑評会では、山形県産酒が金賞20点と、都道府県別で1位となりました。各酒蔵の皆さまが切磋琢磨し、努力をされた賜物であり、誠に喜ばしく思っています。

この秋は、山形の秋の味覚を存分に味わい、改めて山形の魅力を考える機会にしてみてもはいかがでしょうか。

山形県知事 吉村美栄子

<8から9ページ>

タイトル 奏であう人 ボリューム 72

撮影場所 Naëbaco（小国町）

キーワード 移住者の視点で地域の交流を生み出す

刺繍作家として活動する傍ら、移住者をサポートする団体を運営する舟山康名さんと、イラストレーターとして山形を拠点に全国で活躍する竹永絵里さんに、移住したからこそわかる山形の魅力についてお話をお聞きしました。

舟山 康名（ふなやま やすな）さん（小国町）

1992年生まれ。埼玉県出身、小国町在住。大学卒業後、東京のアパレル企業に就職するも、2017年に結婚を機に夫の故郷である小国町へ1ターン。同町の移住者仲間とともに、移住者と地域をつなぐ試みとして、おぐに移住者コミュニティ「つむぐ」を立ち上げる。また、刺繍作家としても活躍している。

写真キャプション 「つむぐ」の活動の一環として、小国町の移住者などが手作りのお菓子や小物などを販売するマルシェを企画している舟山さん。2021年から定期的にマルシェを開催するなかで出店者が増え、今年は27団体が出店。町内外からたくさんのお客さんが訪れ、出店者と交流を深める場となっている。

竹永 絵里（たけなが えり）さん（山形市）

1981年生まれ。福岡県出身、山形市在住。東京を拠点にイラストレーターとして活躍するなか、夫の1ターンに伴い自身も1ターンし、生活の拠点を山形市へ移す。現在も出版物や広告のイラストなど全国区の仕事をしながら、第二の故郷である山形をモチーフにした作品を数多く発表。山形に密着した仕事へも情熱を傾けている。

写真キャプション 竹永さんが山形で出会った魅力ある食べ物や風景、伝統工芸などのイラストをあしらった小冊子やポストカードなどの小物。竹永さんのイラストは、柔らかいタッチとかわいらしく親しみのあるテイストが特徴で、小学校の社会の教科書や商品のパッケージなどで広く採用されている。

移住者ならではの体験が活動をはじめの原点に

小国町で移住者と地域をつなぐ団体「つむぐ」を運営する舟山さんが活動をはじめたきっかけには、自らが感じた移住者ならではの悩みがあったと言います。

「今では小国町が大好きな私ですが、結婚を機に移住した当初は、夫と夫の家族のほかに知り合いがおらず、地元に戻りたいといつも思っていました。役場の方に紹介してもらった先輩移住者と知り合えたことで、居場所ができたように感じました。その経験から、小国町に移住した方が気軽に知り合いをつくったり、情報交換したりする場をつくりたいと考えるようになりました」。

立ち上げから3年が経ち、「つむぐ」は現在約90名のメンバーで活動中。「つむぐ」が定期的に開催するマルシェは、移住者と地域の方が交流する場にもなっています。

「移住者が移住先で人間関係を築くことは、幸福感にも直結すると思います。最近移住した方から、“つむぐ”があるから小国町を選んだとお聞きし、活動の励みになっています。」と舟山さんはほほ笑みます。

一方、会社員を経てイラストレーターとして独立し、結婚を機に山形に移住してきた竹永さんは、移住したからこそ気づいた山形の魅力があったそうです。

「移住する前は、山形といえばさくらんぼのイメージでしたが、移住してみると、農産物直売所にいっぱい旬の果物や野菜、四季折々の美しい自然や郷土料理、祭り、伝統工芸、温泉などたくさん魅力に出会いました。この素晴らしい山形の魅力をイラストで表現して発信したいと思ったのです」。

2021年5月、竹永さんは山形をモチーフにしたイラストの個展「いぐべ！山形」を東京で開催しました。

「ご来場のお客さまから、“じゅんさいの収穫体験が楽しそう”、“重機で芋煮を作る日本一の芋煮会フェスティバルにびっくり”など感想をもらいました。個展をきっかけに、山形に興味を持ち、遊びに来てもらえたらいいなと思います」。

ありふれた日常のなかにある山形の魅力

「地元の方ほど、山形の魅力を当たり前と感じているかもしれません。」と竹永さんが言います。刺繍作家としても活動する舟山さんが応えます。

「私は小国町の身近な風景の季節の移ろいが好きです。山々がつつやつつやの新緑に包まれる春、色鮮やかな花々が咲く夏、紅葉の秋、降り積もる雪でモノトーンの冬。大自然のなかで得た原体験のような感覚は、私の刺繍作品にも生かされています」。

竹永さんがうなずきながら応えます。

「私も山形で得た感覚が、自身のイラストの中に落とし込まれているのを感じます。加えて、都会にはない、人の温かさを実感しています。子どもを連れてスーパーに行くと、他のお客さんが買い物かごをカートに乗せてくれました。日常のちょっとした親切にうれしくなりますね」。

山形の良さを伝えたい

「山形にちなんだイラストを小冊子やマスキングテープにしてみました。」と竹永さん。

「かわいい！竹永さんが描くとより一層魅力的ですね。」と小冊子を手にした舟山さんがほほ笑みます。

「今後は山形に密着した仕事を増やしていきたいです。」と話す竹永さんに舟山さんが言葉をつなぎます。

「小国町に移住した方には、自分の得意分野を生かしてスモールビジネスを始める方も多いです。時間に縛られず、自然を楽しむ暮らしを子どもたちに見せることで、進学などで地元を離れてもいずれ戻りたいと思ってもらえたらうれしいです」。

「心をゆったりとしながら仕事ができるのはいいですね。友人が山形に遊びに来ると、みんな山形のファンになって何度も来てくれるので、移住を勧めています（笑）。」と竹永さん。お二人のように山形を好きになった人たちが磁石のように人を引きつけるのかもしれない。

<10 から 11 ページ>

タイトル **県議会だより** 第98号

県会議の最新情報コチラから今すぐアクセス！

<https://www.pref.yamagata.jp/kensei/assembly/index.html>

6月定例会の概要

令和5年6月定例会は、6月21日から7月10日までの20日間の会期で開催されました。

エネルギー・食料品価格などの物価高騰の影響を特に受けた生活者や事業者に対して支援するとともに、ポストコロナの新しい県づくりを推し進め、さらに、本県が直面するさまざまな課題に対応するため総額46億5,400万円の令和5年度一般会計補正予算をはじめ、知事提出の22議案を可決・同意しました。また請願2件を採択、意見書2件を可決しました。

今定例会では新型コロナ禍の検証と今後の備えについてや「ゼロカーボンやまがた2050」実現に向けた洋上風力発電推進の意義と県民の理解についてなど活発な質疑質問が行われました。

6月定例会で採択した請願

- 免税軽油制度の継続を求める意見書の提出について
- 食料・農業・農村基本法の見直しに関する意見書の提出について

6月定例会で可決した意見書

- 軽油引取税の課税免除措置の継続を求める意見書
- 食料・農業・農村基本法の見直しに関する意見書

6月定例会で質疑質問を行った議員

詳しくはこちらから

録画中継

<http://gikai.pref.yamagata.jp/YamagataPref/>

会議録検索システム(注釈 6月定例会分は9月以降に掲載予定)

<https://ssp.kaigiroku.net/tenant/prefyamagata/SpTop.html>

広報誌「県議会やまがた」(公民館等で閲覧可)

<https://www.pref.yamagata.jp/600006/kensei/assembly/outline/assemblypublic/kengikaiyamagata.html>

代表質問(6月26日)

自由民主党 加賀正和 議員 尾花沢市・北村山郡選挙区

- ◆新型コロナ禍の検証と今後の備えについて など

県政クラブ 石黒 覚 議員 酒田市・飽海郡選挙区

- ◆「ゼロカーボンやまがた2050」実現に向けた洋上風力発電推進の意義と県民の理解について など

一般質問(6月27日)

自由民主党 伊藤香織 議員 山形市選挙区

- ◆山形県体育館、武道館の建て替えについて など

県政クラブ 石川正志 議員 新庄市選挙区

- ◆県管理河川敷地内における排雪場の確保について など

自由民主党 石塚 慶 議員 鶴岡市選挙区

◆農業における燃油・生産資材高騰対策について など

予算特別委員会（6月29・30・7月3日）

自由民主党 阿部恭平 議員 寒河江市・西村山郡選挙区

◆西村山地域の医療提供体制について など

日本共産党山形県議団 関 徹 議員 鶴岡市選挙区

◆義務教育無償の立場からの学校給食無償化について など

自由民主党 高橋弓嗣 議員 東根市選挙区

◆部活動の地域移行について など

自由民主党 梶原宗明 議員 酒田市・飽海郡選挙区

◆水素の供給と活用について など

県政クラブ 橋本彩子 議員 寒河江市・西村山郡選挙区

◆移住増に向けた魅力発信の取組みについて など

自由民主党 五十嵐智洋 議員 長井市・西置賜郡選挙区

◆県民河川・海岸愛護デーについて など

県政クラブ 高橋啓介 議員 山形市選挙区

◆ユニセフの地域組織設立について など

自由民主党 能登淳一 議員 村山市選挙区

◆「子育てするなら山形県」の推進について など

議会用語

請願・陳情

県民の皆さまの要望や意見を文書にまとめて議会に提出すること。紹介議員があるものを請願、ないものを陳情と呼びます。請願は関係委員会での審査を経て本会議で採否が決定されます。陳情は審査は行われず、内容の一覧表が議員に配られます。

詳細は議会ホームページに掲載していますのでご覧ください。

<https://www.pref.yamagata.jp/600006/kensei/assembly/variousguides/annai-1.html>

山形県議会女性・若者参画推進会議を設置

女性や若者を中心に県民の県議会への関心を高め、参画を促していくための各種調査や提案などを検討するため、7月10日に山形県議会女性・若者参画推進会議を設置しました。

座長には楳津博士議員、副座長には高橋啓介議員が選出されました。

生徒・学生と県議会議員との意見交換会を開催

7月13日、身近な県議会を目指して、県立米沢商業高等学校の生徒と県議会議員5名との意見交

換会を行いました。商業研究部の活動発表「やまがたのイメージカラーを紅色にする提案」、生徒会役員の「魅力ある米沢にするには」をテーマに活発な意見が交わされました。

東北中央道、日沿道の建設促進と羽越・奥羽本線等の高速化促進を要望

6月2日、東京都内にて、東北中央自動車道・日本海沿岸東北自動車道の建設促進及び羽越・奥羽本線等の高速化促進に向け各協議会理事会を開催し、本県をはじめ、青森県、秋田県、福島県および新潟県の5県議会から議長らが参加しました。その後関係機関に対し要望活動を実施しました。

令和6年度の政府の施策等に対する提案活動を実施

6月8日、森田議長が吉村知事とともに、各府省に対し「令和6年度政府の施策等に対する提案」に係る提案活動を行いました。

岡田内閣府特命担当大臣、小倉内閣府特命担当大臣をはじめ、文部科学、農林水産、国土交通、経済産業各省の副大臣、政務官に面会し、主要な項目について提案内容を説明し、意見交換を行いました。

県議会ギャラリーで東桜学館中学校・高等学校の探究活動を紹介

県議会ギャラリーでは、6月定例会の期間中、東桜学館の中学生・高校生が総合的な学習（探究）の時間で取り組んだ、「未来創造プロジェクト」の研究内容を展示しました。

広報・広聴委員会の紹介

県議会では、「広報・広聴委員会」を設置し、「開かれた県議会」に向けて取り組んでいます。

委員会では、この「県議会だより」の編集内容も協議しています。

県民の皆さまの県議会に対する理解が深まるような紙面づくりや情報提供に努めていきます。

県議会の情報は、山形県議会ホームページに満載です。ぜひご覧ください!!

- 1 定例会の概要や議会の日程
- 2 議会の生中継やこれまでの質疑の模様
- 3 可決した意見書・決議の内容
- 4 各常任委員会・特別委員会での質疑内容
- 5 会派ごとの議案等に対する賛否状況など

問い合わせ 編集発行／県議会事務局政策調査室 電話番号 023-630-2846

詳しくは検索窓に「山形県議会」と入れてクリック。

<12 から 13 ページ>

タイトル カーボンニュートラルやまがた県民運動 家庭で取り組む脱炭素アクション

第1回・乗り物での省エネ

2050年のカーボンニュートラルの実現に向けて、私たちが今からできる取組みを全4回シリーズで紹介します。

本県の1世帯あたりの自動車保有台数は全国3位（令和4年3月）と全国と比較しても多くなっています。

自動車の乗り方や移動方法を工夫することでCO₂（二酸化炭素）削減につながります。

1人が1キロメートル移動するのに排出されるCO₂(グラム)

マイカー 130グラム

バス 57グラム

鉄道 17グラム

自転車・徒歩 0グラム

出典 国土交通省「輸送量当たりのCO₂排出量（旅客）（2019）」

公共交通機関や自転車など自動車以外の交通手段を選択しよう！

ちょっとした外出や通勤、通学などは公共交通機関や自転車を利用する、徒歩を選択するなど、環境に配慮した移動手段を選びましょう。

自動車に乗るときはエコドライブを実践しよう！

エコドライブは、自動車の燃料消費量やCO₂排出量を減らし、地球温暖化防止につながるだけでなく安全運転にもつながります。日頃からエコドライブを実践していきましょう。

詳しくはこちら <https://ondankataisaku.env.go.jp/coolchoice/ecodriver/sp/point/>

CO₂の排出が少ない自動車を選ぼう！

自動車を購入する際は、電気自動車やハイブリッド車など、ガソリン車に比べて走行時に排出されるCO₂排出量が少ない車を選びましょう。

問い合わせ 環境企画課 電話番号 023-630-2335

タイトル **地域の旬だより** 各地からの情報をお届けします。

東京エリア 県の花「紅花」を首都圏でPR

「紅花」は、本県が主要な産地であり、県の花に指定されています。紅花は半夏生（はんげしょう）（7月2日頃）のころに咲きはじめ、7月上旬から中旬にかけて満開を迎えます。山形県を代表する古刹「山寺」との関係が深く、そのストーリーが「山寺が支えた紅花文化」として文化庁から日本遺産の認定を受けました。また、「歴史と伝統がつなぐ山形の『最上紅花』」として農林水産省から日本農業遺産の認定も受けています。

県では、紅花を首都圏でPRするため、7月上旬から中旬にかけて、歌舞伎座や都内ホテル、本県にゆかりがあるお店（アンテナショップ「おいしい山形プラザ」のパートナーショップ）などの協力を得て、紅花の展示を行いました。山形の夏を感じられる紅花は、施設やお店にお越しの方々に大変好評でした。

東京事務所では、今後も首都圏での県産品や本県の観光の魅力の発信に取り組んでいきます。

写真キャプション1 山形の夏を彩る紅花
写真キャプション2 歌舞伎座での紅花展示

問い合わせ 県東京事務所 電話番号 03-5212-9026

県内おススメ文化・スポーツ情報

やまぎん県民ホール（山形県総合文化芸術館）イベント情報

木梨憲武 交響楽団 in 山形

木梨憲武がオーケストラを従え歌唱披露！今回はどんな予測不可能なライブになることか？笑いあり、感動ありの最高傑作間違いなし！

開催日時

9月22日（金曜日）午後6時30分

出演

木梨憲武、管弦楽：山形交響楽団 ほか

料金

一般席10,000円 ほか

舞台『最高のオバハン 中島ハルコ』

大地真央主演のノンストップ痛快エンターテインメントが待望の舞台化！ハルコの毒舌はステージの上でも健在！ますます豪快に、ゴージャスに、皆様を豪華客船の旅へお連れします。ご期待ください。

開催日時

10月28日（土曜日）午後5時

10月29日（日曜日）正午

出演

大地真央、田山涼成、浅田美代子、モロ師岡 ほか

料金

SS席 10,000円から B席 5,000円

詳しくは検索窓に「やまぎん県民ホール」と入れてクリック。

問い合わせ やまぎん県民ホールチケットデスク 電話番号 023-664-2204

（受付時間：水曜日から月曜日の10時から19時）

山形交響楽団定期演奏会情報

第311回定期演奏会

開演日時

9月9日（土曜日）午後7時

9月10日（日曜日）午後3時

出演

指揮：阪哲朗

ピアノ：小林愛実

演目

酒井健治：ジュピターの幻影

モーツァルト：ピアノ協奏曲 第21番 ハ長調 K.467

モーツァルト：交響曲 第41番 ハ長調「ジュピター」K.551

会場

山形テルサ（山形市）

前売券

A席 4,800円 ほか

第312回定期演奏会

開演日時

10月21日（土曜日）午後7時

10月22日（日曜日）午後3時

出演

指揮：小林研一郎

ヴァイオリン：瀬崎明日香

演目

コダーイ：ガラント舞曲

サラサーテ：ツィゴイネルワイゼン 作品20

サン＝サーンス：序奏とロンド・カプリチオーソ イ短調 作品28

ドヴォルザーク：交響曲 第8番 ト長調 作品88

会場

山形テルサ（山形市）

前売券

A席 4,800円 ほか

詳しくは検索窓に「山響」と入れてクリック。

問い合わせ 文化スポーツ振興課 電話番号 023-630-2903（山響）

プロスポーツゲーム情報

「モンテディオ山形」ホームゲーム

日付

9月3日（日曜日）午後7時

対戦チーム

大宮アルディージャ

日付

9月16日（土曜日）午後6時

対戦チーム

ファジアーノ岡山

日付

10月1日（日曜日）午後2時

対戦チーム

徳島ヴォルティス

日付

10月8日（日曜日）午後2時

対戦チーム

栃木 SC

日付

10月29日（日曜日）午後2時

対戦チーム

ザスパクサツ群馬

日付

11月12日（日曜日）午後1時

対戦チーム

ヴァンフォーレ甲府

（注釈）最新の情報はホームページをご覧ください。

会場 NDソフトスタジアム山形（天童市）

詳しくは検索窓に「モンテディオ山形」と入れてクリック。

「パスラボ山形ワイヴァンズ」ホームゲーム**日付**

10月7日（土曜日）午後4時

10月8日（日曜日）午後2時

対戦チーム（会場）

福島ファイヤーボンズ

（三友エンジニア体育文化センター）

日付

10月21日（土曜日）午後4時

10月22日（日曜日）午後2時

対戦チーム（会場）

神戸ストークス

(南陽市民体育館)

日付

10月25日(水曜日)午後7時

対戦チーム(会場)

青森ワッツ

(山形市総合スポーツセンター)

(注釈) 最新の情報はホームページをご覧ください。

詳しくは検索窓に「山形ワイヴァンズ」と入れてクリック。

問い合わせ 文化スポーツ振興課 電話番号 023-630-3156 (プロスポーツ)

旬のやまがた美食レシピ

えごまパウダースムージー

材料(1人分)

えごまパウダー大さじ4、牛乳100ミリリットル、りんご4分の1個、バナナ1本

作り方

- 1 りんごの皮をむき、芯を除き、ざく切りにする。
- 2 バナナの皮をむき、スライスする。
- 3 ミキサーに、りんご、バナナ、牛乳、えごまパウダーを入れ、かくはんする。
- 4 えごまパウダーによる独特のとろみがあれば、スムージーの完成。

伝統野菜 えごま

収穫時期：8月下旬から9月下旬

えごまは古くから食用または油を採取するために県内各地で広く栽培されています。

えごまから採取したえごま油は、ほのかなシソの香りとまろやかな口当たりが特徴で、 α -リノレン酸が豊富に含まれています。また、油を搾った後の実も栄養が豊富で、粉末状にした「えごまパウダー」は、さまざまな料理に手軽に利用できます。

えごまの葉は青じそに似ています。小さな白い花が咲き、花が散ると、実がなります。

問い合わせ 村山総合支庁北村山農業技術普及課 電話番号 0237-47-8635

詳しくは検索窓に「村山旬の市」と入れてクリック。

<14 から 15 ページ>

タイトル **おいしい山形インフォメーション**

山形県の人口と世帯数 令和5年7月1日現在（プラスマイナス前月比）

人口総数 1,028,904 人（前月比マイナス 802 人）

世帯数 401,586（前月比マイナス 10 世帯）

【催し物】

やまがた健康フェア 2023 開催

県では、県民一人ひとりの健康意識の向上や自発的な健康づくりを通して「健康長寿日本一」を目指す取組みを展開しています。

このたび、健康づくりシンボルイベントとして、関係機関と協働で「やまがた健康フェア2023」を開催します。ぜひ、ご来場ください。

日時

9月23日（土曜日・祝日）・24日（日曜日）

午前10時から午後4時（24日は午後3時まで）

場所

イオンモール天童（天童市）

内容

- ・健康セミナーや健康相談
- ・健康体操の実演
- ・イベント会場を巡るキーワードラリー
- ・減塩メニューの紹介など

詳しくはこちら <https://yamagata-kenko.com/>

問い合わせ がん対策・健康長寿日本一推進課 電話番号 023-630-2313

YAMAGATA秋のにこにこマルシェ

県内各地の障がい者施設で作られた人気商品が大集合！商品の売上げが、障がい者の就労支援につながります。

日時

9月30日（土曜日）・10月1日（日曜日）

午前11時から午後3時

場所

やまぎん県民ホール前イベント広場（山形市）

内容

- ・障がい者施設商品大販売会のほか、動物ふれあいコーナーやキッチンカーなど
- （注釈）障がい者施設商品を購入すると県民べにばな駐車場が1時間無料

問い合わせ 障がい福祉課 電話番号 023-630-3303

わくわく！やまがた体験ツアーに参加してみませんか？

県では、未就学児とその保護者が、親子で山形の魅力を体験する「わくわく！やまがた体験ツアー」を実施しています。

親子で大型バスに乗り、自然や農業・ものづくりなど地域の魅力に触れるツアーです。9月以降のツアーについて参加者を募集しています。まだ知らない山形を再発見してみませんか？

ツアーの詳細・お申込みはこちら

https://yamakokanko.jp/mt7/mt-search.cgi?IncludeBlogs=3&tag=%E3%82%8F%E3%81%8F%E3%82%8F%E3%81%8F%EF%BC%81%E3%82%84%E3%81%BE%E3%81%8C%E3%81%9F%E4%BD%93%E9%A8%93%E3%83%84%E3%82%A2%E3%83%BC&limit=20&blog_id=1

1

問い合わせ しあわせ子育て政策課 電話番号 023-630-3345

【お知らせ】

冬眠前のクマに注意！

秋は、冬眠に向けてクマが餌を求めて活発に動き回ります。今年のブナの実は凶作となる見込みであり、餌を求めて市街地への出没が増えることが予想されます。被害に遭わないために、次の点にご注意ください。

- ・クマに出合ったら、落ち着いてゆっくりとその場から離れ、市町村や警察に通報してください。
- ・クマが近隣で出没している場合には、屋内に避難し、安全が確認されるまで外に出ないようにしてください。
- ・早朝・夜間の外出は特に注意してください。
- ・家のまわりの取り残した果実などの除去や、やぶなどの刈払いをしてください。

問い合わせ みどり自然課 電話番号 023-630-3042

山形県宝くじ情報

県内で販売された宝くじの売上げの一部は、県や県内市町村の収益金となり、道路や橋、学校、公園の整備など私たちの身近な暮らしに役立てられています。宝くじは県内でお買い求めください。

ハロウィンジャンボ宝くじ 5億円

ハロウィンジャンボミニ 5,000万円

発売期間 9月20日（水曜日）から10月20日（金曜日）

問い合わせ 財政課 電話番号 023-630-2044

秋の交通安全県民運動

（9月21日（木曜日）から30日（土曜日））

日没が早まる秋は、夕暮れ時から夜間にかけて交通事故が多くなります。

車も自転車も、早めのライト点灯を心がけ、ドライバーはハイビームを積極的に活用し、歩行者は夜光反射材を身に付けて、交通事故を防ぎましょう。

問い合わせ 消費生活・地域安全課 電話番号 023-630-2460

山形県身体障がい者保養所

「東紅苑」のご案内

「東紅苑」は、身体に障がいがある方とそのご家族の健康増進と憩いの場として、県が東根市に設置している温泉付き保養所です。

リフト付家族風呂もありますので、重度の障がいのある方にも安心してご利用いただけます。宿泊での利用のほか、休憩でのご利用も可能です。おおむね 10 名以上で利用される場合は、無料送迎バスの利用も可能です。

宿泊料金（1泊2食付）

身体障がい者 5,450 円

付き添いの方 5,450 円から 6,240 円

予約・問合せ先

山形県身体障がい者保養所 東紅苑（とうこうえん）

郵便番号 999-3702 東根市温泉町 2-16-1

電話番号 0237-43-2061

ファックス 0237-43-2422

問い合わせ 障がい福祉課 電話番号 023-630-2293

若者相談支援拠点にご相談ください

ひきこもりやニート、不登校など社会参加に困難を有する子ども・若者やそのご家族の相談窓口として、「若者相談支援拠点」を県内 4 地域 8 か所に設置しています。

相談対応のほか、居場所の提供や家族会、体験活動など、それぞれの拠点が特色ある取り組みを行っており、拠点が無い市町村への出張相談会も実施しています。

詳しくは県ホームページをご覧ください。

<https://www.pref.yamagata.jp/010003/bunkyo/wakamonoseishounen/wakamono/kyoten-osirase.html>

問い合わせ 多様性・女性若者活躍課 電話番号 023-630-2727

ひきこもりで悩んでいませんか？

「自立支援センター巣立ち」では、ひきこもり状態にあるご本人やご家族からの相談を無料で受け付けています。

場所

県精神保健福祉センター（山形市）

相談時間

<電話>

毎週月曜日・火曜日・木曜日・金曜日

午前9時から正午、午後1時から5時

<来所>

毎週月曜日・火曜日・木曜日・金曜日

午前9時から正午（注釈）要電話予約

電話番号 023-631-7141

ひきこもりに関する相談は、県内各保健所でも受け付けています（平日午前8時30分から午後5時15分）。最寄りの保健所精神保健福祉担当まで、ぜひご相談ください。

問い合わせ 障がい福祉課 電話番号 023-630-2240

令和5年住宅・土地統計調査を実施します

この調査は、住宅に関する実態や世帯の状況、居住環境などについての調査です。調査結果は私たちの暮らしと住まいに関する計画や施策の基礎資料になります。9月上旬から調査地区に調査員が訪問しますので、ご協力をお願いします。

調査日

10月1日（日曜日）

調査世帯

県内約32,000世帯（無作為抽出で選ばれます）

問い合わせ 統計企画課 電話番号 023-630-2177

新型コロナ総合コールセンター

フリーダイヤル 0120-567-690（24時間受付）

受付内容

- 1 医療機関の受診相談
- 2 自宅療養中の健康相談
- 3 後遺症の相談
- 4 ワクチン接種等に関する相談

（注釈）ワクチン接種等に関する相談は午前8時30分から午後6時

県ホームページ

<https://www.pref.yamagata.jp/020072/bosai/kochibou/kikikanri/covid19/coronavirus.html>

<コロナワクチン接種について>

・コロナワクチンは、令和5年度も自己負担なく接種ができます。詳しくはお住まいの市町村へお問い合わせください。

・なお、予防接種を受ける方には、予防接種による重症化予防等の効果と副反応のリスクの双方について理解した上で、自らの意志で接種を受けていただくこととなります。受ける方の同意なく接種が行われることはありません。

・令和5年秋開始接種（接種時期：9月から12月（予定））では、初回接種（1回目・2回目）を終了した5歳以上のすべての方が、対象となる予定です。

<コロナワクチンの副反応について>

・ワクチンの接種後に生じうる副反応を疑う事例については、厚生労働省において、医療機関等に報告を求め、収集しています。報告がなされた症例については、専門家からの評価結果とあわせて公表されています。

詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください。

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_hukuhannou-utagai-houkoku.html

・コロナワクチンによる副反応が心配な場合など、ワクチン接種等に関するご相談は【新型コロナ総合コールセンター】フリーダイヤル 0120-567-690 へお問い合わせください。

問い合わせ 健康福祉企画課 電話番号 023-630-2494

プレゼントクイズ

県内産業の持続的発展に向けて、県では、企業のDX（〇〇〇〇・トランスフォーメーション）の取り組みを支援しています。さて、〇〇〇〇には何が入るでしょうか？

ヒント2から3ページ 特集

1等 「つや姫」および「雪若丸」各2キログラム【5名様】

2等 山形セルリーわさび風味【10名様】

羽黒・のうきょう食品加工有限会社

第3回山形のうまいもの「ファインフードコンテスト」惣菜部門最優秀賞

正解者の中から抽選で賞品（指定はできません）をプレゼント！

はがきに①クイズの答え②「県民のあゆみ」への感想など③郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号を記入してお送りください。Eメールでの応募の場合は、本文に①から③を入力し、タイトル「プレゼントクイズ」で、y-ayumi@pref.yamagata.jp に送信してください。

あて先

郵便番号 990-8570（住所は不要です）山形県広報広聴推進課「県民のあゆみ」9月号プレゼントクイズ係

締め切り 9月30日（土曜日）（当日消印有効）

注釈 応募いただいた個人情報、賞品発送と「県民のあゆみ」の記事作成にのみ使用し、それ以外の目的には使用いたしません。なお、当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

<16 ページ>

タイトル 潜入レポート

どうなってるの!?

山形県警察交通機動隊

白バイで各地をパトロールする 交通機動隊。どんなお仕事があるの？

潜入動画はこちら

<https://www.youtube.com/watch?v=DQGqRnpVObU>

普段は道路交通の安全を守るとともに、
災害時には特別な任務も。

交通機動隊は、1960年以降、全国的に交通事故死亡者が急増したことを受けて全国各地で発足し、山形県では1965年に発足しました。交通事故防止に向けて、隊員は白バイに乗って県内各地に出動し、危険な交通違反の取り締まりや子どもたちの通学路の見守りなどを行っています。交通機動隊には、天童市と庄内町の2箇所には拠点があり、そこから県内全域をパトロールします。また、地震や大雨などの災害時には、隊員は、白バイからオフロードバイクに乗り換え、道路や橋が壊れるなどして車では行けない災害現場に向かい、被害情報を集めたり、行方不明者を探したりします。300キログラムもある大きく重い白バイを自由自在に乗りこなすことや、オフロードバイクで土砂やがれきがいっぱいの災害現場を走るとはとても難しく、高い技術が必要です。このため、隊員は晴れの日も雨の日も毎日さまざまな訓練を重ねています。

写真キャプション1 白バイを自由自在に乗りこなせるように毎日訓練をしています

写真キャプション2 オフロードバイクでの訓練も

ヒミツポイント

<どのくらいゆっくりと渡れるかな？>

さまざまな道路状況の中を安全に走ることが大事な白バイ隊員。一本橋の上をできるだけゆっくり走る訓練でバランス力を鍛えます。

<災害現場を想定した訓練場>

災害を想定し、さまざまな地形や障害物が配置された訓練場。何度も何度も練習し、運転技術を高めます。厳しい訓練は危険と隣り合わせです。

<冬に活躍するのは覆面パトカー>

冬の間は、雪や道路の凍結により、白バイではパトロールできないため、覆面パトカーに乗り換えてパトロールをします。

<コースを走りぬける白バイ！>

運転技術の向上を目的にした公開訓練会が年に一回行われます。白バイ隊員の高い技術が間近で見られるチャンス！

山形県警察交通機動隊

浅沼 桃佳（あさぬま ももか） 巡查

県民の皆さんが、毎日安心して安全に過ごせるように、日々の訓練を重ね、パトロールをしています。みんなで交通ルールをしっかりと守り、交通事故の防止に取り組んでいきましょう。

奥付

山形県広報誌 県民のあゆみ 令和5年9月号 635号

奇数月1日発行 編集発行 山形県広報広聴推進課

郵便番号 990-8570 山形市松波二丁目8番1号 電話番号 023-630-2534

表紙題字 山形県知事 吉村美栄子

県ホームページアドレス <https://www.pref.yamagata.jp/>